

# 営農ウィークリーNEWS

## 2021年産米をめぐる直近の動向について

### ◆産米動向

米穀の需要動向としては、新型コロナウイルス感染症拡大による下げ止まらない消費の減少とともに業務用を中心とした需要の落ち込みにより全国的に2020年産米の出荷進度は、依然として前年割れが続いております。

2021年6月末民間流通在庫数については、国が219万トンと公表（適正な民間在庫水準180万トン～200万トン）し、2022年産に向けて、米価の維持においては、減産する必要があります。

8月5日、民間の調査会社（榊米穀データバンク）による2021年産米の作柄は、全国102「やや良」。北海道105、東北・北陸103、近畿101、京都101と予想。停滞した秋雨前線がどこまで作柄に影響するかわからない状況下ではあるが、主力米産地は、豊作傾向で厳しい販売環境に直面することは避けられない状況です。産米の早場米価格（コシヒカリ）の状況は、前年産（30kg当たり）から宮崎：▲500円～750円、鹿児島：▲700円、佐賀：▲500円、高知：▲650円の設定。8月下旬より西日本各地が設定する予定ではあるが、本年は不透明な状況が続く可能性があります。予測としては、2014年の6月末民間流通在庫数が220万トンで本年と同様の状況下にあることを見込んで各産地の価格設定が行われることが推測されます。2021年における京都府産米価格の設定については、9月上旬頃を見込んでおります。

### ◆病害虫動向

#### 稲に発生しているトビロウソウ

トビロウソウの飛来状況は、奈良県において、1948年以降最も早く飛来が確認され、昨年と比較しても1ヶ月早い発生と公表され、注意報が発表されました。京都府近隣の大阪府、三重県においても注意報が発表されております。京都府内における8月10日までの予察灯（地点：京田辺、亀岡、京丹後）の誘殺数は確認されておりませんが、飛来していることが推察されます。ほ場で株元を観察し、発生を確認したら防除を行ってください。

斑点米カメムシ類は、京都府病害虫防除所による8月の発生予報では、「やや多」と発表されています。出穂後、防除を行ってください。

#### ←稲穂に発生しているカメムシ

#### 葉いもちの様子→

いもち病については、山間地や平地での多肥ほ場で葉いもちが一部、発生していますが、停滞した秋雨前線により降雨が続き、葉いもち病斑があると穂いもちに移行しやすいので防除を行ってください。

### —TAC information—

集中豪雨に伴う農作物への被害にご注意下さい！

台風9号と秋雨前線の活動に伴い、8月から大雨の影響で京都府内に大きな被害が出ています。また、今後も悪天候が続く可能性があり、農作物にとって厳しい生産環境に直面しています。このような被害を軽減していくため、十分な管理対策を行うことが必要です。裏面に掲載している農林水産技術センター・農林センターからの管理技術対策情報をぜひご活用下さい！

## 大雨による浸水・冠水後の技術対策 農業技術情報（第3号）

台風第9号、及び秋雨前線の活動に伴う12日から15日にかけての大雨により、京都府内に大きな被害が出ています。また、今週末20日頃までは不順な天候が続くと予想されています。ついては、以下の事項を参考に十分な対策を講じてください。

### 1 水 稲

水稲は冠水時間が長くなるほど減収率が高くなります。水が引き次第、状況に応じて対応をしてください。

#### (1) 浸水、冠水したほ場

- ①水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除く。
- ②成熟期に達している稲は、排水溝を切り排水を促すなど、ほ場の乾燥に努め、できるだけ早く刈り取る。
- ③成熟期に達していない稲は、一旦落水した後、新しい用水を入れ、その後は間断かんがいを行う。

#### (2) 倒伏したほ場

- ①漕水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②成熟期に達している稲は、できるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特にキヌヒカリ等穂発芽しやすい品種には注意する。
- ③収穫までに日数がある場合は、無理に起こすさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際を調べ、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

#### (3) いもち病防除

- ①出穂期を迎えている中生や晩生の品種で、いもち病の発生が目立つ場合は、治療効果がある薬剤などで防除する（令和3年7月28日発行 防除所ニュース第5号を参照）。

#### (4) 乾燥

- ①浸冠水、倒伏した稲は籾水分が不揃いで、高水分となっているので、高温による急激な乾燥を避け、通風乾燥により籾水分を均一にしてから乾燥する。

### 2 豆 類（「紫ずきん」を含む）

豆類は一般的に湿害に弱く、浸冠水時間及び漕水時間が長くなると減収率も高くなるので、水が引き次第、速やかにうね間の排水を促し漕水時間を短くしてください。また、病害が発生しやすくなるので、必ず予防防除を行うってください。

#### (1) 浸水、冠水したほ場

- ①水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除くとともに、うね間に漕水しないよう排水を促し、ほ場の乾燥に努める。
- ②浸冠水すると病害虫が発生しやすくなるので、直ちに予防防除を行う。特に、小豆は茎疫病の防除に殺菌剤の散布を行う。茎葉や莢に付着した泥を落とすように防除する。
- ③土壌が乾いた後、浅く耕し、通気性を確保する。
- ④雑草が多発する場合は、雑草の発生状況を確認し、必要に応じて除草剤の散布を行う。

#### (2) 倒伏したほ場

- ①倒伏して莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤の散布を直ちに行う。

### 3 野菜、花き

冠水したほ場では、土壌中の酸素が欠乏するため、根の呼吸が阻害され、根腐れ、茎葉の萎凋など、さまざまな症状が発生します。以下の点に注意し、速やかに必要な対策を行って下さい。

#### (1) 浸水、冠水したほ場

- ①マルチ栽培では、マルチをめぐり土壌表面の乾燥を促す。
- ②退水後は直ちにほ場を清掃し、土が乾いた後、根を傷めないように浅く耕し通気性を確保する。また、排水溝を深めに整備し排水に努める。
- ③茎葉に泥の付着が多い場合、清潔な水や殺菌剤の散布により速やかに洗い流し、光合成の低下や病害の発生を防ぐ。

- ④冠水によって土壌中の窒素や加里が流亡し、葉色が薄くなり生育が緩慢になることが心配される。「根腐れ」や「しおれ」がないことを確認した後、追肥として窒素と加里を含む速効性の肥料を施用して、樹勢の回復を図る。

施用方法は、1アール当たり窒素成分で0.1～0.2kgを5日間隔で2～3

- ⑤果菜類では、樹勢の低下が見られる場合は、摘果と若獲りにより着果負担を軽減し、樹勢の回復を図る。また、トマトやトウガラシ類では、カルシウム欠乏による尻腐れ果の発生が心配されるため、カルシウム剤の葉面散布を5日間隔で2～3回程度行う。

- ⑥風雨による茎葉の腐からバクテリアや糸状菌が侵入し、病害が発生する恐れがあるので、殺菌剤の予防散布を行うとともに、こまめに観察し、発生初期から

防除を行う。特に、疫病、軟腐病などの土壌病害の発生が多いので注意する。

- ⑦収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。

- ⑧ハウス栽培で冠水した場合には、速やかに排水に努めるとともに、強光でハウス内が高温になる場合は、遮光により昇温を抑制し、草勢の回復を図る。

### 果 樹

- ①浸水したほ場は、速やかな排水に努める。
- ②アトワではべと病、ナツでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、適用のある農薬を確認して殺菌剤を散布する。

### 茶

#### (1) 茶園管理

- ①浸水した茶園は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ②激しい降雨で株元が不安定になった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③土砂が流入した場合は速やかに取り除く。逆に表土が流亡した場合は早急に土入れを行う。
- ④病害が発生しやすいので、適用のある農薬を確認し、治療効果のある薬剤による防除を徹底する。
- ⑤茶園にある施設の点検・確認を行う。

#### ア 被覆物

- ・パイプ、アンカー、ワイヤー、被覆資材等の破損がないか点検を行う。
- ・ワイヤー、アンカーの緩みやアンカーの浮き上がりがあれば修理する。
- イ 防霜フラインクの配線（温度センサー含む）、配電盤など、断線等の不具合がないか点検を行う。

- ウ 獣害柵設置ほ場では、柵の破損や土壌流出による隙間など、動物の侵入がないか点検を行う。

#### (2) 茶工場

- ①茶工場内に浸水した場合、速やかに排水し、工場内を十分に乾燥させる。
- ②配線の断線等による漏電、ショートに注意する。マニュアル等で対応する、もしくはメーカーの点検を受ける。
- ③作業時にはヘルメットを着用し、複数で作業するなど安全に留意する。